

令和6年
6月15日
第50号

発行
内外政治
研究G
代表 宮田修一

経団連の「夫婦別姓」暴走に抗議を！

経団連は6月10日、政府に「選択的夫婦別姓制度」の早期導入を求め、提言を公表しました。ビジネス現場で旧姓の通称使用が定着していると認められた上で、「女性活躍が進むほど通称使用の弊害が顕在化してビジネス上のリスクとなり、企業経営の視点からも無視で

きない」などと説いています。しかし、これらの提言は、戸籍制度から「個籍制度」への転換を否定しない左翼的な「選択的夫婦別姓・陳情アクション（井田奈穂事務局長）」の論理展開に沿っています。夫婦別姓を認めれば、世の不合理が一気に

解決するかのような幻想を抱かせています。具体的問題として、①国内で契約やクレジット契約等について今後の通称使用法制化や国内法の整備で解

家裁には裁定の基準や根拠はなく混乱が必至であることなど実生活上の問題を避けています。⑤最新の令和3年末の世論調査で「選択的夫婦別姓賛成」は3割未満で、69%が子どもへの影響を懸念していることなどを無視——。

「経団連」に疑問をぶつけてください。

経団連・十倉会長
発言要旨

経団連提言全文

メールアドレス

webmaster@keidanren.or.jp



皇位継承合意は臨時国会へ

安定的な皇位継承に向けた与野党の協議は合意形成が難しく、夏以降の臨時国会へと持ち越されそうです。

最大の原因は、「女性皇族が婚姻後も皇族の身分を保持する」案について、立憲側を代表する野田佳彦元首相が、女子皇族の夫と子も皇族とする「女性宮家」に固執しているためです。有識者会議の報告書は「夫と子は皇族としない」ことを前提にしています。

通常国会の会期末が23日に迫っている。衆院憲法審査会の与党筆頭幹事である中谷元氏は「（立憲抜きでの）4日の憲法審査会幹事懇談会での改正条文案起草作業」を打ち出したが、すぐに取り下げた。参院公明の反発があったからだという。6日には参院立憲の国対委員長が、足許を見透かして「自民党が改憲案条文化を強行すれば全ての審議に応じられない」と脅した。

憲に挑まないのか。5月30日には日本武道館に「緊急事態条項」の発議を求めて全国から1万人もの人々が集結した。多くの国会議員とともに出

た。驚いた方もいると思

り、野田の声を尊重するなどの紳士協定だが、政局にからめているのは、誰が見ても立憲だろう。議論は出尽くしているのに「時期尚早だ」と強弁し、なかなか席に着こうとしないのだから話にならない。加えて、与党内の衆・参の間に若干の溝があった

岸田首相は起死回生の正面突破を

ぎりぎりまで「改憲原案提出」を探れ！

席した中谷氏は「今日の決議はほんとうに心強い」と言ったはずだ。

は、初代憲法調査会長（審査会の前身）の中山太郎氏（故人）が定めた中山方式という暗黙のルールがあるという。政局に絡めないことや、少

だが、諦めるのはまだ早い。今、関係者が与党の決断を促すべく懸命に頑張っている。わずかだが、まだ時間がある。ぎりぎり

ことほどさように国会は複雑怪奇だが、なぜ自民党執行部は敢然と改

提出見送りへ」と報じ

の

岸田首相の決意表明はもう充分だ。自民執行部が動かなければ、直接「正面突破」の指示を出すべきだ。（内外政治研究グループ代表 宮田修一）